

# 江田島市住宅マスタープラン（案）に係る意見募集の結果について

## ■実施結果の概要

### （１）実施時期

平成 30 年 6 月 1 日（金）から平成 30 年 6 月 29 日（金）まで

### （２）周知方法

- ・市ホームページへの掲載
- ・資料の閲覧，貸し出し（都市整備課，本庁 1 階窓口，市民センター（江田島・能美・沖美）及び三高支所）
- ・広報えたじま 6 月号への掲載
- ・デジタルサイネージへの掲載 等

### （３）提出方法

直接提出，郵送，F A X 又は電子メール

### （４）意見募集の結果

意見提出者数 3 人

提出方法内訳 直接提出 2 件

電子メール 1 件

## ご意見の概要と市の考え方

### 【住宅事情に係る地域の特性】

No	ご意見の概要	江田島市の考え方
1	<p>人口に関するデータ（年齢構成）が高齢 65 歳以上となっており、65 歳以上の構成がわかりません。プランの基本目標や基本方針の検討には必要と思います。高齢者単身（21.4%）、高齢の夫婦（20.9%）計 42.3%の年齢構成確認はとても重要ではありませんか？</p>	<p>・年齢構成確認は重要と考えます。本計画では、市民アンケート調査において、「老後の理想の住まい・住環境で重要に思うこと」について年代別に分類・分析した結果（計画書 P29）からは、前期高齢者が含まれる 60 代と後期高齢者の割合が高い 70 代以上が望む住まい・住環境について大きな差は認められなかったため、「人口に関するデータ」について、年齢構成確認のできる詳細な資料の掲載は行っておりません。</p> <p>なお、アンケート調査の結果については、本計画の「高齢者や障がい者などがいきいきと生活できる住環境の整備」（計画書 P44 の基本方針）に反映しております。</p>

【住宅政策の基本理念】

No	ご意見の概要	江田島市の考え方
2	<p>当住宅マスタープランを見ると、目標・計画共、ハード面を主体に考察しプランされている。</p> <p>訪れてみたい街・住んでみたい島になるためには、魅力あるソフト（コミュニティー）があり、それを実現するためのハード（住宅・施設）がツールとしてあることが必要です。</p> <p>何をもって魅力とするかのソフト面（どのようなコミュニティーでどのようなアクションをするか）を示し、どのような街・島にするかの方針・生活（住んでいる人の生活が魅力的かどうか）、訪れてみたい街・住んでみたい島の条件：これもソフト）を計画する必要があると思います。それを実現するためのツールとして、当該住宅マスタープランにあるようなハードが必要と考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画のソフトは、第2次江田島市総合計画において将来の目指す姿として掲げた「協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま」の実現です。</li> <li>・『恵み多き島』とは、瀬戸内の美しい海や豊かな自然に囲まれ、市民にとっては、ずっと住み続けたいと思える「住みよさ」を備え、地域の「つながり」や「地域資源」を生かすことによって、一体感や安心、誇りや元気、にぎわいや個性を感じることができる島であり、また、江田島市外の人々からは、訪れてみたい、住んでみたいと感じてもらえるような、魅力あふれる島のことをいいます。</li> </ul>

【住宅政策の基本目標】

No	ご意見の概要	江田島市の考え方
3	<p>基本目標2にある未来につながる快適な住まいづくり（幹線沿いにファミリー向け住宅団地促進）とあります。どこまで真剣な目標なのでしょうか。時期の目標・目安の記載が必要ではないでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画は計画期間を10年とする基本計画であることと、住宅団地の整備は、民間開発事業者の動向に左右されるため、具体的な「時期の目標・目安」については、記載していませんが、今後の施策実施の中で積極的に検討してまいります。</li> </ul>

<p>4</p>	<p>自立支援公営住宅</p> <p>江田島市内・外の母子家庭やニート（職に就かない若者）などに向けて、医療・福祉分野の資格を取れるように自立支援・就労支援をセットにした公営住宅を作ってはどうか。母子については、母子自立支援制度による自立支援と、公営住宅の一部補助などの体制を作り、ニートにも低価格の住居と、資格取得（介護士など）の補助をするというセットプランにするという内容です。</p> <p>市内では、施設職員・ヘルパーなど介護職がすでに不足しています。また、事業者から、看護師や栄養士の不足も聞いております。今後も高齢化はますます進み、新たな働き手を増やす対策が必要です。</p> <p>ニートで実家暮らしの人は市内にどれくらいいるのでしょうか。多いのではないかと思います。そして、親が高齢となっているケースもあると思います。市外からの移住も見込めると思います。</p> <p>母子家庭について言えば、市内外関わらず、居住場所と仕事との両方が必要であり、母子自立支援制度と公営住宅の補助を用意すれば、市外からの移住も見込めると思います。</p> <p>なぜ公営住宅なのかと言いますと、ニートや自立のための支援を必要とする人は、自立までの生活が不安だと思いますが、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立支援公営住宅」については、重要な施策と考えております。このため、「市営住宅の目的外使用などによる多様な有効活用に向けた取組」（計画書P52の基本施策）の中で積極的に検討してまいります。</li> </ul>
----------	---	--

<p>仲間がいるとがんばってみようと思えると思います。地域の福祉のためにもなりますし、母子やニートなどの再出発の場にもなると思います。</p> <p>ご検討をどうぞ宜しくお願いいたします。</p>	
--	--

**【住宅マスタープランの進行管理】**

No	ご意見の概要	江田島市の考え方
5	<p>成果指標に現状値⇒目標を掲げ、PDCAをまわすとされていますが、前回のプラン策定時の目標と結果の公表（開示）がされていません。公表（開示）ご検討願います。（前回の目標に対する結果の施策の効果確認、反省に基づいた新マスタープランである筈です）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回計画は、3つの目標、全32施策から成り立っております。その実施状況は、全32施策のうち19施策（59.4%）について実施されました。</li> <li>・本計画では、前回計画を踏まえ、計画全体の成果指標を設定し、PDCAサイクルにより、適切な進行管理に努めてまいります。</li> </ul>

【その他】

No	ご意見の概要	江田島市の考え方
6	市外から市職員が勤められていることに「市内に住めばいいのに」との声をよく聞きます。住居地選択の強制はできませんが、今後1人でも多く移住してもらえれば江田島市の住民の理解と住宅政策の外に向けたアピールになると思います。	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員が本市の中で生活をし、働くことも大切だと考えられますが、市外に住む職員にもそれぞれ家庭の事情があって今の居住地を選択しております。</li><li>・本計画を適切に推進することで、一人でも多くの方に江田島市を居住地として選択していただけるよう取り組んでまいります。</li></ul>

貴重なご意見誠にありがとうございました。ご意見を考慮し、事業実施に努めてまいります。